

第 10 期事業報告書

(2016 年 10 月～2017 年 9 月)

一般社団法人 J E A N

1. 海洋ごみ問題に関わる情報の収集及び発信

(1) 海洋ごみ問題について、マスメディア等からの取材または照会に応じた。

(2) 海の情報を網羅する情報ウェブサイト「海ごみプラットフォーム・JAPAN(Malip)」を運営した。

(3) JEAN の活動及び海洋ごみ問題について広く知ってもらうため、JEAN ウェブサイトを適宜、更新した。

(4) 機関紙「美しい海をこどもたちへ」の編集・発行

サポーター、各地のクリーンアップ運営担当者（以下、「キャプテン」という）及び関係者を対象に、海洋ごみに関する情報を掲載した機関紙「美しい海をこどもたちへ」を、3 回発行した。

43 号（2016 年 12 月発行、A4 版 4 ページ）

44 号（2017 年 3 月発行、A4 版 6 ページ）

45 号（2016 年 8 月発行、A4 版 4 ページ）

(5) 団体の公式フェイスブックページと、海洋ごみの情報発信フェイスブックページを運営した。

(6) 講演等の案内を、適宜メール等で関係者に行った。

(7) その他

国内各地の行政、民間企業、NPO 等（個人を含む）との情報交換に対応した。

2. 海洋ごみ問題に関わる調査研究

(1) 自主調査

① 日本における「国際海岸クリーンアップ（ICC 調査）」の主催

世界約 100 カ国でいっせいに行われる「国際海岸クリーンアップ」へ参加するため、協力団体を中心に日本国内での参加呼びかけを行った。また、協力団体が実施した結果をとりまとめ、12 月に主宰団体であるオーシャン・コンサーバンシー（アメリカ）へ報告した。

② 東日本大震災に起因する漂流物の、北米西海岸等への漂着について、現地関係者から情報を収集、記録した。

3. 海洋ごみ問題に関する啓発及び国際協力

(1) クリーンアップキャンペーンの展開

漂着ごみの実態把握と海洋ごみ問題の啓発活動の一環として、ICC 調査を取り入れたキャンペーンを春と秋に展開し、参加の呼びかけや結果のとりまとめを行った。

① 2016 年秋のキャンペーン（対象期間：9～10月）

目的：漂着ごみの ICC 調査

会場数 149 箇所 参加者数 8,476 人

② 2017 年春のキャンペーン（対象期間：2016 年 11 月～2017 年 8 月）

目的：漂着ごみの回収

会場数等 145 会場、11,265 人

2017 年秋のキャンペーン（対象期間：9～10月）

目的：漂着ごみの ICC 調査

会場数等 39 会場、2,243 人（9 月実施分のみ。最上川、荒川含まず）

④ データベースの構築

調査データの蓄積のため、データベースを構築し、蓄積作業を継続している。

⑤ 2016 年の活動状況をまとめた「クリーンアップキャンペーン 2016 レポート」概要版（A4 版カラー 8 ページ）を 1,000 部作成し、キャプテンを中心に配布した。

(2) 啓発用展示物の貸し出し

海洋ごみ問題の現状を認識してもらうため、4 種類の展示物を貸し出し、広報活動を行った。

写真パネル（「みんなの問題海のごみ」A1 アルミフレームタイプ、A1 ロール型、A3 ラミネート型「新たな海洋汚染マイクロプラスチック」）

貸出団体：37 団体 貸出日数 379 日

新版漂着物のトランク・ミュージアム

貸出団体：8 団体 貸出日数 105 日

(3) 国際的な知見共有等

① 韓国の NGO「OSEAN」との連携協力

日韓共同英文ニューズレターの第 7-2 号を 2016 年 12 月に、第 8-1 号を 2017 年 6 月に発行した。

② 「国際海岸クリーンアップ（ICC）」主宰団体のオーシャン・コンサーバンシー（アメリカ）へ、2016 年の国内データを 12 月に提供した。

(4) 講演・研修指導等の協力

以下の会場で、海洋ごみ問題について講演及び研修指導等を行った。

<講演活動>

・法政大学（11 月 11 日）

・富士市消費者連盟講演（11 月 16 日）

・ICC アジア太平洋地域会議（11 月 16 日～18 日 香港）

- ・パナソニックエコリレージャパン 講演（11月19日）
- ・青年海外協力協会環境教育研修講演（12月6日）
- ・富士市市民生活講座講演（12月7日）
- ・環境省海洋ごみシンポジウム2016(12月10日)
- ・ナホトカ号重油流出事故から20年シンポジウム 講演とパネルディスカッション（1月29日）
- ・アジア3R推進フォーラム国内大会ワークショップ（1月30日）
- ・沖縄県漂着物対策交流事業 ワークショップ（2月10～12日）
- ・隠岐ジオパーク 塩の浜ミーティング講演とワークショップ（3月4～6日）
- ・日本アムウェイ担当者向けレクチャー（3月14日）
- ・Marine Debris Symposium2017 発表とパネルディスカッション（5月20～21日台湾）
- ・台湾海洋大学 動画配信用ビデオメッセージ（5月21日）
- ・国土交通大学校海岸研修（6月8日）
- ・ヨコハマ海洋市民大学講演（7月29日）
- ・ラッシュェジャパンアリオ亀有店ワークショップ（8月21日）
- ・廃棄物資源循環学会市民フォーラム発表と出展（9月5日）

<ごみ調査指導等>

- ・アムウェイクリーンアップ群馬会場（4月2日）
- ・アムウェイクリーンアップ福島会場（6月4日）
- ・アムウェイクリーンアップ愛知会場（6月10日）
- ・パタゴニアサーフ千葉（5月14日）
- ・リシュモンジャパン江の島クリーンアップ（7月29日）

4. 政策提案

（1）東日本大震災に起因する漂流・漂着物問題にかかわる活動

随時、海洋ごみ問題の情報収集を行い、状況に応じ、連絡調整等を行った。

（2）その他

海洋ごみ問題への理解等を図るため、適宜各党の関係国会議員との面談を行った。

5. 附帯又は関連する事業

（1）専門会、委員等の協力

以下の会議に出席し、情報収集及び提案等を行った。

- ・食品容器環境美化協会主催 環境美化教育優良校等表彰審査委員会
- ・海岸漂着物対策専門家会議（環境省）
- ・環境省調査事業検討会（環境省）
- ・沖縄県海岸漂着物対策推進協議会 委員（沖縄県）
- ・同上 ワーキンググループ（沖縄県）

- ・海ごみ関係者懇談会（環境省）
- ・山形県海岸漂着物対策推進協議会 副会長（山形県）

6. その他目的を達成するために必要な事業

- (1) 出版社等からの要望により、海洋ごみ問題に関する画像を、有料で貸し出した。
- (2) 資料（「海辺のカルテ」、映像資料「ゴミ箱になった海」、映像資料「人工の海」）を、継続して販売した。
- (3) 既存の指導者向け「海辺のカルテ」のこども向け汎用版として、「漂着物ワークブック」を作成し、販売を開始した。

(4) 受託事業、助成活動等

- ① 海の生き物をマイクロプラスチックから守ろうプロジェクト
（ラッシュジャパンチャリティポットによる助成活動/京都府京丹後市）
2016年 10月 25日～27日
- ② 第14回海ごみサミット 2016 三重会議 運営委託業務（三重県）
2016年 10月 28-30日
- ③ 【漂着物のトランク・ミュージアム®】馬版制製作ワークショップ支援業務（対馬市）
2016年 11月 1日～2017年 1月 31日
- ④ 海のプラごみ汚染問題解決にむけた連携ワークショップと普及啓発活動の拡大
（独）環境再生保全機構・地球環境基金による助成活動
2017年 4月 1日～2018年 3月末
- ⑤ 海岸漂着物交流事業支援業務（新上五島町）
2017年 5月 25日～11月 30日

(5) その他

オリジナル資料等の効率的な販売を図っていくため、(株) ゴーフールド（本社：香川県高松市）の協力を得て、ネットショッピングサイト JEAN STORE を運営し、通信販売を行った。